

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
認知症対策部会
令和元年度活動報告書

令和2(2020)年5月

生 駒 市

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 認知症対策部会

目次

1	はじめに	- 3 -
2	認知症対策部会の役割	- 4 -
3	認知症対策部会の開催	- 4 -
4	令和元年度の具体的な取組	- 7 -
5	令和2年度の計画（案）	- 11 -
資料1	認知症対策部会の設置及び運営に関する規程	- 12 -
資料2	令和元年度認知症対策部会委員名簿	- 13 -

1 はじめに

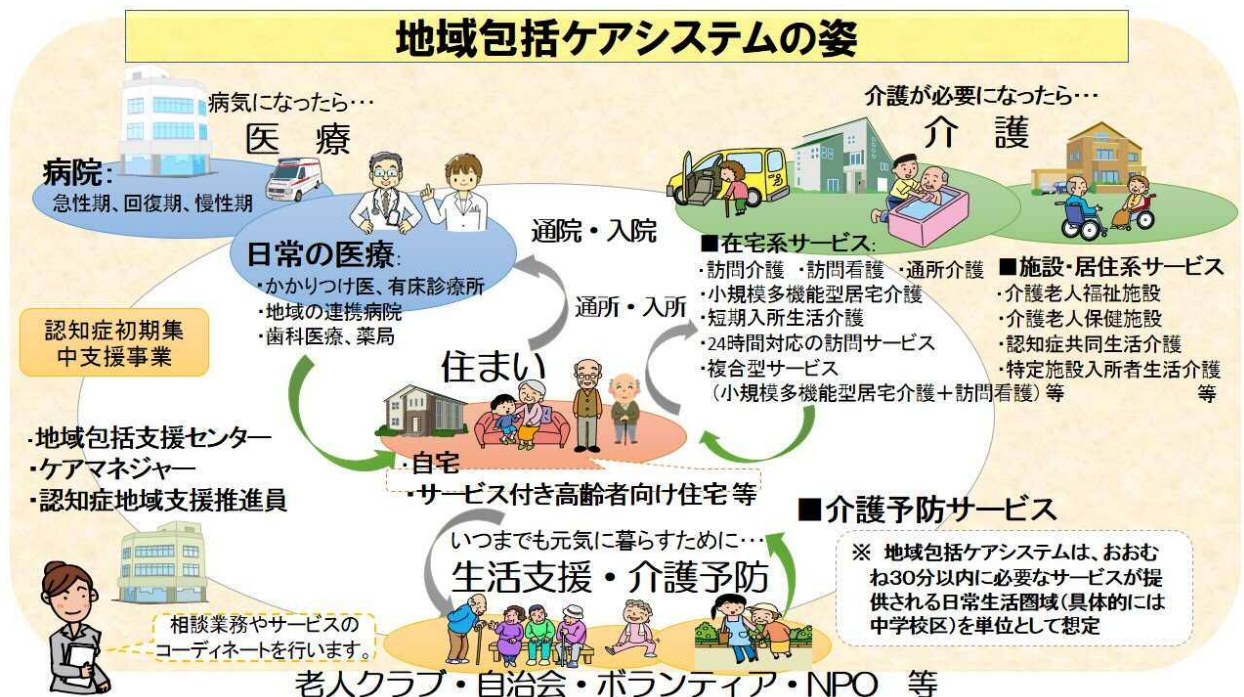
生駒市における高齢者数は今もなお伸び続けており、2025年の高齢化率は29.4%と見込まれている。中でも、医療や介護が必要となる割合が高まる後期高齢者数が前期高齢者数を上回り、今後、ますます医療や介護を必要とする対象者は増加するものと考えられる。

こうした状況を踏まえ、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が包括的に確保される地域包括ケアシステムの実現が求められている。

そこで、本市においては、「医療・介護・予防」の分野に係る包括的かつ継続的な医療・介護・予防サービスの提供体制の構築を目指し、平成28年3月から「生駒市医療介護連携ネットワーク協議会」を立ち上げ、「在宅医療介護推進部会」と「認知症対策部会」を設置し、その取組を推進しているところである。

令和元年度、認知症対策部会は、現場の意見を反映した検討を行うべく部会員を増員し、平成30年度に作成した認知症初期対応事例集を活用した多職種連携研修会を開催するなど、認知症ケアの向上を中心に取組を進めてきた。

引き続き、医療・介護関係者の相互理解や情報共有により、生駒市全体で顔の見える関係づくりを進めるとともに、患者・利用者が医療や介護の切れ目なく、サービスを利用できる体制の構築及び関係者の質の向上と市民啓発に努めていきたいと考える。



2 認知症対策部会の役割

認知症対策部会においては、下記①～⑤の内容について、部会員から意見や助言を求めるものである。

- ①認知症の普及啓発に関する事項
- ②認知症予防に関する事項
- ③認知症ケアの向上に関する事項
- ④多職種連携に関する事項
- ⑤生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

3 認知症対策部会の開催

開催年月日	会議の内容
【第1回】 令和元年5月25日	①部会長選出・副部会長指名 ②認知症対策部会平成30年度活動報告書について ③認知症対策部会令和元年度スケジュールについて ④認知症初期対応事例集を用いた多職種連携研修会の企画について
【第2回】 令和元年9月20日	①認知症初期対応事例集を用いた多職種連携研修会の企画について ②在宅医療介護推進部会・認知症対策部会合同多職種連携研修会について ③施設職員向け対応力向上研修の企画について ④認知症の正しい理解の普及啓発について
【第3回】 令和元年11月16日	認知症に関する多職種連携研修会開催
【第4回】 令和2年2月21日	①認知症初期集中支援チーム等の実績報告について ②令和元年度認知症対策部会活動報告書について ③次年度の計画について ④認知症に関する研修企画について

第2回会議において、施設職員向け対応力向上研修の企画について意見交換を行った。主な意見は次のとおり。

- ・ 尊厳が大事。認知症の人の気持ちを真に理解するということが根本にあると思う。模擬体験・VR体験や、DVD等で認知症の人の気持ちを理解していただくのが良い。
- ・ 認知症サポーター養成講座用のDVDが非常に分かりやすく、印象に残っている。DVD鑑賞後、ロールプレイング等でケースを学んでも良いと思う。一般の人が観る以上に、専門職は直接支援に活かすことができる。
- ・ 現場としたら「認知症の人をわかろう」ということが根本。それがわからないと、難しい研修をしても知識として入るだけでなかなか現場には活かせない。入門のような研修が良いと思う。
- ・ 利用者とのコミュニケーションは重要。そういう研修があれば。
- ・ 研修は施設でもやっている。施設職員が敢えて夜間や休日に参加するのか。この部会として実施する必要があるか。
- ・ 在宅、施設、ショートといった職員が一緒に研修を受講したが、それぞれ声かけの仕方や考え方が全然違い、勉強になった。
- ・ 以前参加した多職種研修では、医師をはじめ、様々な職種の人が参加していた。DVDを観た後にグループワークを行ったが、チームによって全然違う結論になった。始めに課題等が見えると盛り上がると思う。

施設職員向け研修とするのか、多職種連携研修会として開催するのか、引き続き検討していきたい。

また、第4回会議において、次年度の部会の活動について、意見交換を行った。主な意見は、次のとおり。

- ・ 地域の人と関わる人が多いので、部会としては普及啓発かケアの向上を深めていきたい。
- ・ 認知症の人を地域で支えるためには、地域の人との協力なしには不可能。市民の方に対する啓発が必要と日々感じている。市民から、どう協力したら良いか分からないという声も聞く。
- ・ 地域力というのか、おせっかいの多い地域は近所の見守りの意識を大事にしている。「ヘルパーが入ったからもう関係ない」とならないような意識を育てられる、そんな地域が良いと思う。認知症があってもいきいきと明るく過ごせる。それが重要。
- ・ ケアパスを最初に作ったが、やはり普及啓発は重要。ちょっとした見守りから声を上げてもらえるような地域のつながりが必要だと思うが、一般の人はそれを知る術がない。より多くの人に知ってもらえるような普及啓発が必要。
- ・ 実際に認知症の人のご家族も、分かっていないこともある。関わっている人でもそ

うなので、関わりのない人たちは全然知らないだろうと実感している。まずは関心を持ってもらうことが何より大事と考える。

- ・子どもたちへの啓発に力を入れることで変わってくると思う。子どもたちから地域への広がりも期待できる。子どもは素直。養成講座実施後のアンケートでも非常に優しい意見を書いていただいている。
- ・市民講座や多職種研修、参加されている人はそもそも意識の高い方。ターゲットを絞っていく必要がある。
- ・認知症講座を実施しても参加される人はだいたい70～80代で、30～40代が圧倒的に少ない。子育て世代等が参加するイベント等で啓発できれば。
- ・認知症は今後増えていく。将来受け入れていかなければいけないものとして教育の中に入れていただければと考えている。
- ・机上だけでなく、認知症の人と触れ合う時間があるからこそ次のステップにいける気がする。一緒に集えるようなサロン、認知症カフェで時間を共有できるような場が取れたら。

普及啓発がまだまだ不十分、来年度そこに取組んでいけばどうか、との意見が多かった。令和2年度は、認知症部会として、若い世代向けの普及啓発を検討していく。

4 令和元年度の具体的な取組

(1) 認知症の普及啓発に関する事項

○認知症に関する市民フォーラム「老い支度講座」の開催

団塊の世代が75歳以上となる令和7年(2025年)に向け、認知症高齢者の増加が予想される中、認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするためには、医療分野や介護分野の更なる連携強化が重要な課題となっていることから、「認知症」というキーワードを通し、尊厳死やリビングウィル、アドバンス・ケア・プランニングといった考え方を学び理解を深めることを目的として、認知症に関する市民フォーラム「老い支度講座」を開催した。

日 時：令和元年7月26日(金) 午後1時30分～3時
場 所：生駒市コミュニティセンター 文化ホール
内 容：「老い支度講座」

老い支度コーディネーター 石黒 秀喜 氏

参加者数：212人



令和元年度 認知症に関する市民フォーラム

老い支度講座

認知症は、65歳以上の人口の1人に1人が認知症になると推定されています。認知症は、生活の自立や社会参加が難しくなるだけでなく、介護や医療の負担も増大します。認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするためには、医療分野や介護分野の更なる連携強化が重要な課題となっています。認知症に関する正しい知識を学び、認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするための取組を進めます。

入場無料
定員：250人
※定員に達した場合は、抽選となります。

日程 令和元年7月26日(金)
時間 13:30～15:00(会場13時)
場所 生駒市コミュニティセンター文化ホール
(生駒市中央1-1-1)
講師 石黒 秀喜氏
(地域ケア連携ネットワーク事務局代表)

石黒 秀喜氏
石黒 秀喜氏は、認知症に関する正しい知識を学び、認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするための取組を進めます。認知症に関する正しい知識を学び、認知症になっても住みなれた地域で暮らし続けることができるようにするための取組を進めます。

主催 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会認知症対策部会、生駒市いごまき大学

○RUN TOMO-RROW (ラン伴) ゴールイベントの開催

認知症の人や家族・支援者等が、タスキをつなぎながら、北海道から沖縄まで全国を縦断するプロジェクト。令和元年度は市役所正面玄関において奈良ブロックのゴールイベントを実施した。また、イベント開催に合わせ、市役所ロビーにおいてミニ認知症カフェを開設。当日は多くの参加者でにぎわった。

また、啓発のため、10月21日(月)から25日(金)の間、地域医療課・地域包括ケア推進課・介護保険課の職員がオレンジのTシャツを着て執務を行った。

日 時：令和元年10月27日(日) 午後3時～4時45分
場 所：生駒市役所正面玄関他
参加者数：約250人



○認知症啓発ティッシュの作成・配布

認知症の正しい理解の普及啓発に向け、認知症啓発ティッシュを作成。
市役所窓口で配布するとともに、令和元年10月11日(金)夕方、市職員・認知症地域支援推進員が生駒駅前街頭啓発を実施した。



○認知症 VR 体験会の開催

令和2年2月16日(日)に開催したケアリンピック生駒において、認知症 VR 体験会※を開催した。(参加者：83人)

※認知症ではない人が、バーチャルリアリティ (VR) の技術を活用し、認知症の中核症状を体験するもの。



(2) 認知症ケアの向上に関する事項

○認知症初期対応事例集を活用した多職種連携研修会の開催

平成30年度に認知症対策部会において作成した認知症初期対応事例集を活用し、認知症の人を支援するに当たり、それぞれの専門職がどのように関与していくかについて、多職種で改めて考える機会として開催した。

日 時：令和元年11月16日(土) 午後2時～4時
場 所：生駒市コミュニティセンター 402～404 会議室
内 容：講演(14:00～14:35)

「初期対応と多職種連携」 前田 智 氏

(独立行政法人国立病院機構やまと精神医療センター)

認知症に関する事例検討会(15:30～16:00)

参加者数：44人



(3) 多職種連携に関する事項

○認知症初期対応事例集を活用した多職種連携研修会の開催(再掲)

○在宅医療介護推進部会・認知症対策部会合同多職種連携研修会

在宅医療介護推進部会と認知症対策部会ではそれぞれの異なる視点から取組を進めているが、目指すところは地域包括ケアシステムの深化・推進である。

両部会合同で研修会を開催することで、改めて意識を1つとするとともに、専門職が互いに知り合い、意見交換を行う機会を通して、より顔の見える関係の構築を進めるために、ワールド・カフェ方式による多職種連携研修会を開催した。

日 時：令和元年10月19日（土）午後2時～午後4時30分

場 所：生駒市役所4階 大会議室

参加者数：82名

内 容：生駒市の医療介護連携の歩み（取組報告）

- ・ 認知症対策部会の取組報告

認知症対策部会長 山上 正仁 氏

- ・ 在宅医療介護推進部会の取組報告

在宅医療介護推進部会長 萩原 洋司 氏

意見交換（ワールド・カフェ方式）

- ・ 独居、認知症、在宅医療、得意なことの4つのテーマを設定。
- ・ 25分ごとにテーブルを移動し、好きなテーマを選択して意見交換を実施



（4）生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

認知症初期集中支援チームの実績を踏まえ、適切に事業が運営されていたかの評価等を実施する役割を認知症対策部会が担っている。令和元年度は、2月から認知症初期集中支援チームが関与している案件が1件あり、第4回会議において、支援の状況等について報告を行った。

引き続き、認知症初期集中支援チームの効果的な運用方法について、検討する必要がある。

5 令和2年度の計画（案）

項目	令和2年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画		●第1回(5月16日)										
			○令和元年度活動報告書 ○令和2年度スケジュール ○認知症に関する研修の検討 ・多職種連携研究会 ・一般市民向けフォーラム									
				○認知症に関する研修の検討 ・多職種連携研究会 ・一般市民向けフォーラム								
					○一般市民向けフォーラム開催		○多職種連携研究会開催					
							●第3回					
										●第4回		
											○生駒市認知症初期集中支援 チームの実績報告 ○令和2年度の活動報告 ○令和3年度の計画	

資料 1 認知症対策部会の設置及び運営に関する規程

認知症対策部会の設置及び運営に関する規程

(設置)

第 1 条 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会開催要綱第 7 条第 1 項の規定に基づき、認知症対策部会（以下「部会」という。）を設置する。

(協議事項)

第 2 条 部会において意見又は助言を求める事項は、次のとおりとする。

- (1) 認知症の普及啓発に関する事項
- (2) 認知症予防に関する事項
- (3) 認知症ケアの向上に関する事項
- (4) 多職種連携に関する事項
- (5) 生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

(部会長等)

第 3 条 部会に部会長及び副部会長を置く。

- 2 部会長は部会員の互選により定め、副部会長は部会長が指名する部会員を持って充てる。
- 3 部会は部会長が招集する。
- 4 部会長は、部会の事務を掌理し、部会の調査、検討の結果を協議会に報告する。
- 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 部会長は、必要があると認めるときには、部会の会議に部会員以外の者の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(庶務)

第 4 条 部会の庶務は、地域包括ケア推進課において処理する。

(施行の細目)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、部会に必要な事項は、会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成 28 年 6 月 1 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

資料2 令和元年度認知症対策部会委員名簿

(順不同。敬称略)

氏名	役職等	関係機関名
山上 正仁	一般社団法人生駒市医師会 副会長	生駒市医師会
石井 友香梨	近畿大学奈良病院 患者支援センター	生駒市内病院
徐 典代	医療法人和幸会阪奈中央病院 リハビリ科 作業療法士 副技師長	生駒市内病院
川田 和弘	医療法人社団松下会白庭病院 副院長	生駒市内病院
中溝 辰男	生駒市歯科医師会 相談役	生駒市歯科医師会
古田 佳子	有限会社アール 生駒駅前南店	生駒地区薬剤師会
湯川 美香	株式会社ライフケア創合研究所 いこいの家訪問看護ステーション 管理者	訪問看護ステーション
川端 康之	生駒市フォレスト地域包括支援センター 管理者	地域包括支援センター
中田 エミ子	居宅介護支援センター延寿 管理者	居宅介護支援事業所
松村 和泉	NPO 法人あけび 理事長	訪問介護事業所
馬庭 夕紀	奈良県郡山保健所 健康増進課 主幹	郡山保健所
竹田 幸代	グループホームさくら 施設長	その他市長が必要と認める者
田中 英子	生駒市梅寿荘地域包括支援センター 認知症地域支援推進員	その他市長が必要と認める者